

## 取組概要

2024 年 1 月 23 日

埼玉県立大学 学長

候補者 所属学科 看護学科  
氏 名 澤田 宇多子

私の取組は次のとおりです。

この度、学生投票により、第 11 回道学教師理事長賞の候補者として選出いただきましたこと、大変光栄に存じます。今年度 4 月より埼玉県立大学に着任し、右も左もわからない不安なスタートを切った私がここまでやってこられたのは、ひとえに周りの先生方や職員の皆様のご指導・ご支援、そして素直で真面目で優秀な学生の皆さんのおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私自身、特別な取り組みができたわけではありませんが、「精神看護学実習」「講義」「卒業研究」の場面で心がけてきたことや姿勢について、以下にお伝えいたします。

### 1. 精神看護学実習における取り組み

3 年次の精神看護学実習では、日々試行錯誤の連続で、振り返れば反省点が多々あります。そのような中、学生の皆さんが、悩みながらも、元気に前向きに実習に臨み、日々成長していく姿は、私の一番の励みでした。実習中に感じたことは、学生一人ひとりが本当に素晴らしい可能性を秘めているということです。その良い部分を引き出し、伸ばせる教員でありたいと強く思いました。特に心がけたのは、学生たちの意見や考えを尊重し、どのような意見でもまずは受け止める姿勢です。しかし、それを十分に実現できなかった場面も多く、反省しております。今後は、さらに学生の声に耳を傾け、学生の学びと成長を柔軟にサポートしていけるよう努めたいと考えております。

### 2. 講義における取り組み

講義では、学生が主体的に参加できるインタラクティブな環境を作ることを大切にしています。そのため、例えば、匿名で意見を発信できるオンラインツールを活用するなど、学生の声を可視化する工夫を取り入れました。担当した精神看護学Ⅰ・Ⅱやメンタルヘルス論の講義では、精神疾患を「自分の身近なこと」として考えられる感覚を持つことの重要性を伝えたいと思い、可能な限り最新の科学的根拠に基づいた情報を提供することを心がけました。また、学生一人ひとりの気持ちに寄り添う姿勢を大切にしました。しかし、

130人を超える大規模講義に対する不慣れもあり、十分に全員に目を配れなかった点は、課題として受け止めています。この経験を踏まえ、よりきめ細やかな講義運営を目指したいと考えております。

### 3. 卒論研究における取り組み

卒業研究においては、研究に真摯に向き合い追求する姿勢を学んでほしいという思いから、時に高い要求をしてしまったこともありました。それでも、吸収力と成長を間近で見守る中で、学生の皆さんが発揮する創造性や努力に心から感動したことは忘れられません。私は、学生たちが思考を深め、自分の考えを発展させていくための「もう一つの頭」として寄り添うことを常に意識しています。そして、卒業研究を通じて得た知識や経験が、学生の皆さんの将来に繋がることを願っています。

### 最後に

私の研究テーマは、お互いを知ることにより、人々が互いに尊重し合い、大切にし合う関係性と組織風土を醸成することを目的とした介入研究です。最終的には、このような研究が不要となるほど、「自分はここにいて良い存在なのだ」と自然に思え、安心感と信頼に満ちた社会が実現することを願っています。

学生の皆さんから高い評価をいただけたことは、何よりの励みであり、また、自分の至らなさや今後の課題を見つめ直す機会でもあります。この貴重な経験を糧に、今後も学生の皆さんと共に成長し、学び合える教育者でありたいと思います。